

NPO／特定非営利活動法人

放送批評懇談会

第15回通常総会議事録

- 第一号議案 議長の選任
- 第二号議案 放送批評懇談会 2018 年度事業報告
- 第三号議案 放送批評懇談会 2018 年度決算報告
- 第四号議案 放送批評懇談会 2019 年度事業計画
- 第五号議案 放送批評懇談会 2019 年度収支予算

放送批評懇談会

2019年6月23日



特定非営利活動法人放送批評懇談会

<第15回通常総会>

- 開催日 2019年6月23日
- 会場 TKP新宿カンファレンスセンター
カンファレンスルーム 5D
- 会勢 <正会員>
200名 (入会18名、退会10名)
<維持会員>
140社 (退会1社)
- 出席者 32名
家田利一 市村 元 出田幸彦 榎本恒幸
音 好宏 川喜田尚 五井千鶴子 隈部紀生
小林 毅 小林英美 坂本 衛 桜井聖子
嶋田親一 鈴木健司 鈴木嘉一 滝野俊一
田中典子 豊田拓臣 長井展光 中島好登
丹羽美之 信井文夫 橋本 隆 稗田政憲
服部千恵子 桧山珠美 藤田真文 藤久ミネ
水島宏明 八川敏昭 山田健太 渡邊 悟
- 委任状提出者 87名
- 出席予定者と委任状提出者で計119名



第一号議案 議長の選任

定款第27条「総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する」の規定に則り、出席の正会員の中から、「小林英美氏」を合議により選出。

第二号議案

放送批評懇談会

2018 年度事業報告



2018年度総務事業報告

1. 会員管理、会議運営、事務局業務を行い、事業部門の活動を支援しました。
2. 第10回志賀信夫賞
正会員による候補者推薦を受け、選考委員会で選考を行い、テレビマンユニオン最高顧問でプロデューサー、演出家、脚本家の今野勉さんを選出し、第56回ギャラクシー賞贈賞式で賞状と盾をお贈りしました。
選考委員会：音 好宏（委員長） 橋本 隆 藤田真文 藤久ミネ 川喜田尚 丹羽美之
3. 第56回ギャラクシー賞贈賞式
2019年5月31日（金曜日）、セルリアンタワー東急ホテルボールルームにて「第56回ギャラクシー賞贈賞式・懇親会」を開催しました。
実行プロジェクトメンバーは演出・入江たのし理事、総務・中島好登事務局長を中心に編成しました。出席者は報道陣、スタッフも含めて、約630名でした。
4. NHK BSプレミアム「ザ・ベストテレビ2018」
2018年10月14日（日）、15日（月）両日。
第55回ギャラクシー賞テレビ部門大賞作品の映像'17「教育と愛国～教科書でいま何が起きているのか」（毎日放送）は、14日（日）に放送され、番組には、毎日放送・斉加尚代ディレクターが出演しました。
5. NHKラジオ第1「ザ・ベストラジオ2018」
2018年10月8日（月）、9日（火）、10日（水）、11日（木）。
8日に第55回ギャラクシー賞ラジオ部門優秀賞の「SBS ラジオギャラリー 幸せのカタチ～本当の親子 本物の親子～」(静岡放送)、11日に同大賞の「最期への覚悟」（CBCラジオ）が放送されました。



6. 第18回「日韓中テレビ制作者フォーラム光州大会」
2018年10月21日～24日、韓国・光州で開催された第18回「日韓中テレビ制作者フォーラム」に協力し、大会の成功に寄与しました。
7. 「文書保存・管理ガイドライン」「印章規程」を定めました。
8. 「退職金支給規程」「福利厚生型保険付保規程」を制定しました。
9. 「就業規則」を一部改訂しました。



2018年度出版編集事業報告

1. 昨年度は下記のメンバーで運営しました。

委員長	水島宏明
副委員長	鈴木健司 氏家夏彦
委員	太田省一 岡田芳枝 新川周平 宮崎美紀子 渡邊 悟
編集スタッフ	中島好登 福島美子 山本夏生 齋藤茜里

2. 毎月6日に「GALAC」プリント版(3000~4000部)と電子版で発行しました。

1) 特集テーマは以下のとおりです。

- 2018年10月号 クイズ番組が熱い
2018年11月号 気象・災害報道とメディア／放送改革(1)第3次答申を読み解く
2018年12月号 岐路に立つ紅白歌合戦
2019年1月号 第56回上期ギャラクシー賞／放送改革(2)佐山展生・山田俊浩
2019年2月号 テレビ報道とSNS
2019年3月号 女性アナウンサーという生き方／放送改革(3)前田裕二
2019年4月号 新時代の放送人キャリア／放送改革(4)村上憲郎
2019年5月号 テレビの笑いが消える!?!／放送改革(5)川邊健太郎
2019年6月号 変わる!スポーツ中継／放送改革(6)夏野剛
2019年7月号 決定!第56回ギャラクシー賞／放送改革(7)TVer-現状と課題
2019年8月号 続報!第56回ギャラクシー賞「贈賞式」「受賞のことば」
2019年9月号 「チョコちゃん」徹底解剖／第3次韓流ブーム(仮題)

2) ドラマ、ドキュメンタリー、アニメ、アイドル、バラエティ



など、コンテンツを多角的に見つめました。特に今後の放送局のあり方の見直しが政財界をあげての喫緊の課題となっている状況を踏まえ、「シリーズ 放送制度改革」を不定期に掲載し、主に「放送業界の外」から識者らが提言するページに重点的に力を注ぎました。

- 3) 選奨事業委員会の見る会・聴く会報告、企画事業委員会のセミナー抄録など、各委員会と連携したページ作りにつとめました(2018年11月号、2019年2月号)。
3. 放懇オンラインショップ、富士山マガジンサービスでの直販に努めました。2018年7月号、9月号、12月号などで実績を上げました。富士山マガジンサービスではキャンペーンを実施し、定期購読者の掘り起こしに努力しました。
4. インターネット対応を進めました。
 - 1) ニュースサイト「goo」「@nifty」「東洋経済 ONLINE」に記事の提供を行いました。
 - 2) Gメンバーサイトに電子版を提供しました。



2018年度選奨表彰事業報告

1. 本年度は下記の委員の構成で運営しました。

選奨事業委員長 稗田政憲

＜テレビ部門委員会＞

委員長 出田幸彦

副委員長 岩根彰子

委員 岩城浩幸 梅田恵子 兼高聖雄 小泉世津子
戸部田 誠 西森路代 旗本浩二 福島俊彦
藤岡美玲 細井尚子

＜ラジオ部門委員会＞

委員長 五井千鶴子

副委員長 川喜田 尚

委員 今村和夫 掛原雅行 茅原良平 黄 莉香 小林浩子
仲宇佐ゆり 松浦正和 迎 康子 本村 隆 山田眞嗣

＜CM部門委員会＞

委員長 服部千恵子

副委員長 汲田亜紀子

委員 家田利一 泉 綾子 風間恵美子 国枝智樹
島崎英雄 鈴木武人 鈴木ゆかり 野上信子
星野 裕 本庄雅之 山口菜穂美

＜報道活動部門委員会＞

委員長 丹羽美之

副委員長 市村 元

委員 小川邦雄 河野尚行 境真理子 櫻井 要 関 美礼
中村正敏 原 真 藤久ミネ 古川柳子

選奨事業委員会担当事務局 福島美子 齋藤茜里

2. 第56回ギャラクシー賞各部門の選考のため、以下の作業を行いました。

＜テレビ部門委員会＞

・2018年4月から2019年3月まで、毎月月評会を開き月間賞4本を選びました。



選考結果を「GALAC」誌上に月間賞選評および番組短評一覧として発表しました。毎月20日を情報解禁日とし、月間賞の選考結果をプレスリリースしました。

- ・2018年9月8日～26日、10月12日～24日に、第56回上期自薦作品146本を視聴。10月30日、月間賞(24本)と自薦作品の中から上期入賞作品7本を選出しました。
- ・2019年3月9日～28日、4月5日～17日に、第56回下期自薦作品157本を視聴。4月22日、月間賞(24本)と自薦作品の中から下期入賞作品7本を選出しました。同時に特別賞、個人賞、フロンティア賞も選びました。フロンティア賞は、応募作品9本、推薦作品1本から選考しました。

<ラジオ部門委員会>

- ・2018年4月から2019年3月まで、毎月定例会を開催してラジオについての合評を行いました。
- ・2018年10月、第56回上期43本の自薦作品を聴取し、10月19、23日に各部門の上期候補作品を選出しました。
- ・2019年4月、下期36本の自薦作品を聴取し、4月15、16日に各部門の下期候補作品を選出しました。
- ・4月23日、上期下期をあわせた候補作品の中から入賞作品8本を選出し、DJパーソナリティ賞も選出しました。
- ・2018年7月22日に文化放送12階ホールで「ギャラクシー賞入賞作品を聴いて、制作者と語り合う会」を開催しました。

<CM部門委員会>

- ・2018年4月から2019年3月まで、毎月定例会を開催してCMについての合評を行いました。
- ・2018年10月29日、上期75本(テレビ)、44本(ラジオ)、1本(テレビ+ラジオ)の自薦作品を視聴し、13本の上期候補作品を選出しました。
- ・2019年4月24日、下期91本(テレビ)、71本(ラジオ)の自薦作品を視聴し、13本の下期候補作品を選出しました。続いて最終選考会を行い、上期下期合わせた候補作品の中から13本の入賞作品を選出しました。



・2018年11月10日に上智大学四谷キャンパス2号館2-508号室にて「第55回ギャラクシー賞CM入賞作品を見る・聴く会」を開催しました。

<報道活動部門委員会>

- ・2018年10月31日、上期12本の自薦作を視聴・聴取し、4本の上期候補作品を選出しました。
- ・2019年4月20日、下期23本の自薦作を視聴・聴取し、6本の下期候補作品を選出しました。上期下期合わせた候補作品の中から6本の入賞作品を選出しました。
- ・2019年2月に委員会を開催して、報道活動についての情報交換を行いました。
- ・「GALAC」連載ページを委員が分担し、全国各地における報道活動の紹介、各局報道活動への期待、特定のテーマに関する報道活動についての論考などを執筆しました。



2018年度企画開催事業報告

1. 2018年度の企画事業委員会は、下記の委員で構成しました。

委員長 桜井聖子

副委員長 奥 律哉

委員 佐藤友紀 田川義博 長井展光 藤田高弘

松崎泰弘

2. 2018年度は引き続きタイムリーなワンポイントのテーマで中規模のセミナーを11月に開催しました。近年、大きな自然災害に襲われていることから、災害報道が放送の大きな使命と考えセミナーを開催し、定員100名の参加があり、好評を得ました。収支については、67,596円の黒字となりました。また月刊「GALAC」との連携を図り、気象・災害特集号に開催告知、セミナー開催後の抄録を掲載できたことも評価されました。

タイトル：「西日本豪雨・台風21号・北海道胆振東部地震
～頻発する自然災害 ローカル局はどう向き合うか」

日時：2018年11月8日（水）14：00～16：30

会場：明治記念館 107-0051 東京都港区元赤坂2-2-23
03-3403-1171

開催趣旨：豪雨、台風、地震。今年も日本列島は大きな自然災害に襲われました。放送にとって災害報道は大きな使命であり、存在意義も問われます。地元に必要な情報は十分伝えられたか？ネット上で個人発の情報が「フェイク」も含めて情報があふれる中、放送はネットをうまく活用、また役割分担はできたか？地元でテレビが全く見られなくなる停電の中で放送局はどう対応したのか？CM面での対応は？——など論点は山積しています。

今回は、いち早く独自の天気予報を始めるなどローカル情報を充実させ災害報道に活かしてきた南日本放送の中村耕治会長による基調講演と、報道現場、



ネットでの識見のあるパネリストによる討論で、災害報道について、主にローカル目線から多面的に議論を深めます。

プログラム

14:00～14:45 【基調講演：災害報道と地域主義】

南日本放送 代表取締役会長 中村耕治氏

15:00～16:30 【ディスカッション：災害とメディア～テレビ、ラジオ、ネット】

パネリスト：京都産業大学教授 脇浜紀子氏

HBC北海道放送東京支社報道制

作部長 羽二生渉氏

法政大学准教授 藤代裕之氏

モデレーター：松崎泰弘

参加費：一般8,000円、維持会員社5,000円（1名あたり）、
個人会員3,000円



2018年度広報事業報告

1. 以下のメンバーで運営しました。
委員長 滝野俊一
副委員長 茅原良平
委員 飯田みか 石橋さや夏 中平良磨 永田俊和
西川博泰 柳川素子
事務局 中島好登 齋藤茜里
2. フェイスブック、インスタグラム、ツイッターなどのSNSを使った広報活動に力を入れ、ギャラクシー賞や「GALAC」、放懇セミナーなど会の事業のパブリシティに努めました。
・5月の第56回ギャラクシー賞贈賞式で受賞結果をフェイスブック、インスタグラム、ツイッターで速報しました。また、独自のインタビュー動画も撮影しました。
3. 月間賞の受賞作品をSNSで告知したほか、プレスリリースを一般紙およびWebニュースのサイトなどに配信しました。
4. 準会員制度「放送批評懇談会 オンライン会員 Gメンバー」（以下、Gメンバー）の維持管理を行いました。
・会員を増やすべく、SNSなどを使った広報活動に力を入れました。
・1月には年会費を1,000円に改定し、学生でも入会しやすい料金設定にしました。
・Gメンバー向けに第55回個人賞受賞の高橋一生の動画を掲載。また、「GALAC」のメイキング画像をGメンバーだけに公開するなど、サービスの充実に努めました。
・Gメンバーの会員数は166名（5月31日現在）でした。
5. マイベストTV賞を運営し、第13回マイベストTV賞グランプリを「チョコちゃんに叱られる！」(NHK)に贈りました。マイベストTV賞は放送批評懇談会正会員とGメンバーの投票で選出しました。毎月の投票結果をフェイスブックやイン



スタグラム、ツイッターに掲載することで関心を高めました。

6. 会のリーフレットをリニューアルしました。
7. ホームページのリニューアルに着手しました。

第三号議案

放送批評懇談会

2018 年度決算報告

収 支 計 算 書

2018年4月1日～2019年3月31日まで（単位：円）

科目	予算額	決算額	差異
I. 収入の部			
1. 会費等収入			
会費収入	2,900,000	3,489,185	△ 589,185
維持会費収入	42,500,000	42,495,000	5,000
メンバー会費収入	300,000	128,922	171,078
2. 事業収入			
選奨表彰事業収入	33,000,000	30,518,180	2,481,820
企画開催事業収入	1,000,000	519,000	481,000
周年事業収入		18,000	△ 18,000
3. その他の収入			
出版編集事業収入	4,500,000	5,944,043	△ 1,444,043
広告料収入	4,500,000	4,347,600	152,400
4. 雑収入			
受取利息	0	214,766	△ 214,766
当期収入合計	88,700,000	87,674,696	1,025,304
II. 支出の部			
1. 事業費			
選奨費	8,100,000	7,721,036	378,964
式典費	12,800,000	13,187,493	△ 387,493
企画開催費	700,000	492,077	207,923
原稿料	5,700,000	5,842,628	△ 142,628
編集費	4,000,000	4,147,886	△ 147,886
雑誌印刷費	18,000,000	19,018,584	△ 1,018,584
発送費	2,050,000	2,232,115	△ 182,115
2. 管理費			
給料手当	18,220,000	19,024,496	△ 804,496
人件費	4,100,000	2,068,368	2,031,632
法定福利費	2,900,000	2,982,710	△ 82,710
福利厚生費	160,000	162,376	△ 2,376
旅費交通費	650,000	627,965	22,035
通信費	600,000	574,415	25,585
資料費	50,000	46,610	3,390
会議費	330,000	342,591	△ 12,591
水道光熱費	290,000	300,176	△ 10,176
事務用品費	100,000	102,414	△ 2,414
消耗品費	360,000	349,887	10,113
備品費	300,000	420,686	△ 120,686
諸印刷費	800,000	762,480	37,520
広報費	1,200,000	2,264,500	△ 1,064,500
支払手数料	200,000	202,626	△ 2,626
賃借料	4,100,000	4,087,947	12,053
保険料	710,000	707,514	2,486
交際費	150,000	200,220	△ 50,220
雑費	900,000	930,037	△ 30,037
諸会費	150,000	151,644	△ 1,644
租税公課	80,000	70,000	10,000
退職給付引当金繰入	1,000,000	1,000,000	0
志賀基金繰入			0
当期支出合計	88,700,000	90,021,481	△ 1,321,481
当期収支差額	0	△ 2,346,785	2,346,785

貸借対照表

2019年3月31日現在(単位:円)

科目	金額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	45,635,630		
未収入金	3,459,700		
所有物	286,625		
流動資産合計		49,381,955	
2. 固定資産			
賃借権利金等	33,162		
差入保証金	4,099,500		
特定資産			
志賀基金	63,918,230		
退職給付引当金	27,104,068		
固定資産合計		95,154,960	
資産合計			144,536,915
II. 負債の部			
未払金	6,900,661		
前受金	2,370,000		
預り金	493,608		
退職給付引当金	27,104,068		
負債合計			36,868,337
III. 正味財産の部			
志賀基金	100,000,000		
その他の正味財産	7,668,578		
正味財産合計			107,668,578
(うち基本金)			0
(うち当期正味財産増加)			-2,346,785
負債及び正味財産合計			144,536,915

正味財産増減計算書

2018年4月1日～2019年3月31日まで(単位:円)

科目	金額		
I. 増加の部			
1. 資産増加額			
未収入金増加額	147,200		
特定資産増加額	1,207,056		
2. 負債減少額			
未払金減少額	270,815		
増加額合計		1,625,071	
II. 減少の部			
1. 資産減少額			
現金預金減少額	2,787,431		
賃借権利金減少額	132,645		
1. 負債増加額			
預り金増加額	51,780		
退職給付引当金増加額	1,000,000		
減少額合計		3,971,856	
当期正味財産増加額			-2,346,785
前期繰越正味財産額			110,015,363
期末正味財産額			107,668,578

第四号議案

放送批評懇談会

2019 年度事業計画



2019年度総務事業計画

1. 会員管理、会議運営、事務局業務を行い、事業部門の活動を支援します。
2. 正会員の加入促進
正会員の加入促進に努めます。正会員の増員によって会の基盤を強め、より多彩な活動を支えます。
3. 維持会員の加入促進
維持会員の増員によって会の財政基盤を強めることを目指します。
4. ホームページの維持管理
広報委員会と連携し、公式ホームページを維持管理し、充実を図ります。
5. Gメンバー、Gメンバーサイトの管理
広報委員会と連携し、「放送批評懇談会 オンライン会員 Gメンバー」の管理に当たり、運営を支援します。Gメンバーサイトの維持管理に当たります。
6. 「GALAC」広告
出版編集委員会と連携し、「GALAC」広告の営業に努力するほか、スペースの有効活用について研究します。
7. 第57回ギャラクシー賞贈賞式
第57回ギャラクシー賞の開催準備に当たります。
8. ギャラクシー賞データベース
「ギャラクシー賞データベース」の管理運営に当たります。
9. 志賀信夫賞
第11回の選考、表彰を行います。



10. 第19回「日韓中テレビ制作者フォーラム・中国大会」
2019年に開催予定される第19回「日韓中テレビ制作者フォーラム・中国大会」に協力し、大会の成功に寄与します。
11. 事務局の労働環境、管理・業務を整備し、次世代につながる事務局体制を模索します。
12. 2023年に控える放送批評懇談会60周年のための準備活動を開始します。



2019年度出版編集事業計画

1. 本年度は下記のメンバーで運営します。

委員長 水島宏明

副委員長 鈴木健司 氏家夏彦

委員 太田省一 岡田芳枝 新川周平 宮崎美紀子

渡邊 悟

編集スタッフ 中島好登 福島美子 山本夏生 齋藤茜里

2. 毎月6日に「GALAC」を発行します。本年度の運営方針は以下のとおりです。

- 1) テレビやラジオという「放送」が現在、大きな転機を迎えている状況を強く意識し、「放送」にかかわる諸問題に問題提起しつつ、次の時代を見据えながら放送文化の向上に貢献する放送批評を雑誌として行います。
- 2) 特集ページ・連載ページ・各選奨委員会による作品批評ページの3本柱で構成し、放送にかかわる制作者、送り手、受け手などそれぞれの立場の人たちにとって「プラスα」を伝える雑誌であるよう心がけます。
- 3) 政府や業界などに忖度しないジャーナリズム精神でコントロールバーシャルなテーマにも積極的にチャレンジする編集姿勢を貫きます。
- 4) 特集ページではタイムリーなテーマを選定し、タイミングを失することなく、スピーディーな展開を目指していきます。
- 5) ネットでの記事発信や電子出版などにも力を入れて、信頼される放送批評誌としての存在感と影響力を高めていきます。
- 6) 選奨事業委員会や企画事業委員会と連携し、放送をめぐる様々な活動に多面的に寄与していきます。



- 7) 広報委員会と連携し、「GALAC」の宣伝・広報に努めます。
- 8) 「GALAC」広告の営業に努力するとともに、有効活用を研究します。



2019年度選奨表彰事業計画

1. 2019年度は下記の委員構成で運営します。

選奨事業委員長 稗田政憲

＜テレビ部門委員会＞

委員長 出田幸彦

副委員長 岩根彰子

委員 岩城浩幸 梅田恵子 兼高聖雄 小泉世津子
戸部田 誠 西森路代 旗本浩二 福島俊彦
藤岡美玲 細井尚子

＜ラジオ部門委員会＞

委員長 五井千鶴子

副委員長 川喜田 尚

委員 今村和夫 掛原雅行 茅原良平 黄 莉香
小林浩子 仲宇佐ゆり 松浦正和 迎 康子
本村 隆 山田眞嗣

＜CM部門委員会＞

委員長 服部千恵子

副委員長 汲田亜紀子

委員 家田利一 泉 綾子 風間恵美子 国枝智樹
島崎英雄 鈴木武人 鈴木ゆかり 野上信子
星野 裕 本庄雅之 山口菜穂美

＜報道活動部門委員会＞

委員長 丹羽美之

副委員長 市村 元

委員 小川邦雄 河野尚行 櫻井 要 関 美礼
中村正敏 原 真 桧山珠美 古川柳子
松山秀明

選奨事業委員会担当事務局 福島美子 齋藤茜里

2. 第57回ギャラクシー賞（2019年度）の審査、ならびに贈賞式を行います。



3. 2019年度の運営方針は以下のとおりです。

電通「2018年日本の広告費」によるとテレビ広告費は2年連続減少、ラジオ広告費も減少しました。この傾向は今後の民放経営に影響を与え、各部門の応募数にも影響を与える可能性が高いこと示しています。各部門は昨年度（第56回ギャラクシー賞）の成果を少しでも上回ることができるよう、熱い討議と公正にかつ緻密で慎重な選考、質の高い選評を行ってまいります。加えて、「ギャラクシー賞入賞作品を見て聴いて、制作者と語り合う会」開催など受賞作品を媒介にPR活動の強化を図り、制作者と視聴者をつないでいく試みでギャラクシー賞の認知を高める努力を続けていきたいと思えます。また、NHKのネット同時配信を認める改正放送法が成立したことにより、「放送とネットの融合の時代」が現実のものになります。各部門委員会において、その対応と可能性を早急に検討していきたいと思っています。

1) テレビ部門委員会の運営

テレビ視聴が減少傾向にあると言われていています。ここ数年、テレビメディアに対する意識の変化は若年層だけでなく、40・50代の中年層にも広がっています。その背景にはネットによる動画配信が拡大するなど、メディア環境の大きな変化があります。しかしテレビは今も社会に大きな影響力をもち、民主主義社会を支え、心豊かな社会を実現していくためのメディアとして大きな役割を担っています。これからも豊かな放送文化を創造していくためには、ドキュメンタリー、ドラマ、バラエティなどそれぞれの分野の番組が新鮮かつ多様でなければなりません。こうした視点をふまえながら、テレビ部門委員会としては、テレビ番組に対する真摯で活発な批評活動をさらに進め、優れた作品の顕彰などを通してテレビメディアのさらなる活性化に貢献していきます。

① 定例月評会の開催

テレビ部門委員会は、毎月、月評会を開いて各委員が推薦する番組の中から活発な意見交換を通して「月間賞」を選びます。また年2回、各放送局、プロダクションなどからエントリーさ



れる応募番組の選考を行い、「月間賞」作品も加えて上期、下期それぞれで「入賞作品」および「奨励賞」を選びます。そのうえで年間を通して優秀な作品や個人に対して「大賞」「優秀賞」「選奨」「特別賞」「個人賞」を決定します。

② フロンティア賞の定着

2015年度に新設した「フロンティア賞」は5年目となります。2017年度からは年1回応募も受け付け、選奨委員の推薦と合わせて選考を行っています。メディア環境の大きな変化のなかで、テレビの新境地を開拓し、その未来や可能性を広げる意欲的な番組や活動を顕彰し、「賞」のさらなる定着と応募数の増加を図ります。

③ 制作者との交流

上記の選考の過程や結果については毎月の「GALAC」誌上に掲載するとともに、年間を通した受賞作品は贈賞式で発表します。選奨委員による選評や短評は制作者へのメッセージでもあることから、ひきつづき内容の充実に努めていきます。このほか、制作者をゲストに招いた受賞番組上映会や討論会などの開催にひきつづき努力します。

2) ラジオ部門委員会の運営

新体制になって1年。半数以上の委員の変更がありましたが、ラジオ委員会の結束力は万全です。セッツインユースの低下現象が続くラジオ媒体の強化につなげるべく、委員全員で情報を共有し、ラジオの魅力を発信していきます。

① 定例合評会

毎月1回の定例合評会を開催します。今まで同様、全国のAM局、FM局、コミュニティ局の全番組を対象に、聴取番組を選びその評価を致します。合評会の議論の内容は「GALAC」にて公開します。試聴する番組のテーマを毎月設定します。(過去の例・食とラジオ・ラジオと川柳・浪速の昼どき・ラジオと健康・経済番組・沖縄の夜・高校生向け番組・旅番組・スポーツミニ番組・新しい朝ワイド)

番組の長所、あるいは改善点などを幅広く議論し、番組の更なる充実を促し、他局の制作者のヒントとなるようにします。



② ギャラクシー賞の選考

昨年度の応募本数は79本でした。局別の応募はAM局が51本、FM局21本、コミュニティ局7本でした。カテゴリー別では生ワイド13本、音楽&エンタテインメント31本、ドラマ9本、報道ドキュメンタリー26本でした。しかしながら、応募される局の常連化が目立ちます。この点に留意しながら、更なる応募の増加が果たせるよう努力します。第56回ギャラクシー賞ラジオ部門の入賞作品は大変高いレベルでした。優れた番組や出演者を発掘し、ラジオの魅力と底力を発信します。

③ 「GALAC」での活動

「ラジオ委員会としてどのような情報を発信するか」が最大かつ永遠のテーマです。

現在の「合評会報告」をさらに充実させます。「生ワイド番組紹介」では全国の放送局を12のブロックにわけ、地方ならではのユニークなワイド番組やDJパーソナリティを発掘します。2018年6月号からスタートした「ラジオデイズ」は委員各自の視点からラジオへの提言、問題提起、ホットニュースなどをとりあげていきます。

④ ギャラクシー賞入賞作品を聴いて、制作者と語り合う会」の開催

今年は26回目です。7月7日(日)13時からTBS11階セミナー室で大賞のラジオ沖縄「私宅監置・沖縄～扉がひらくとき～」と優秀賞のTBSラジオ「TBSラジオ年末交通情報～おまけ付き～」の2作品で開催します。

3) CM部門委員会の運営

第56回ギャラクシー賞は、応募数テレビCM166本、ラジオCM115本、テレビCM+ラジオCM1本の総計282本となりました。前年はラジオCM作品の応募を開始し、応募数が増加しましたが、今期は残念ながら対前年で39本減となりました。ただ、テレビとラジオともに応募作品の質は揃ってきており、絞り込んでの応募が目立ちました。今後、ラジオCMを含めてより一層の適正な審査に注力していきます。



す。また近年影響力を高めているウェブCMの役割の検討など、メディアの拡大も中期的視野に入れてまいります。

CM委員会では以下の活動を通じ委員会運営を強化いたします。

- ① 選考会では、テレビ・ラジオCMの役割とギャラクシー賞の魅力を確認しつつ、クリエイティブ力のある作品、感銘をあたえる作品、時代をリードする作品を発掘していきます。
 - ② 月1回の月評会は、委員各々がリストアップした3本のCMを多角的な視点から検討し、活発に批評活動を磨いてまいります。
 - ③ 毎月のピックアップデータを「GALAC」誌面に反映できるようにしていきます。現在は毎月推奨される約30作品中、5～6作品しか紹介しておりませんが、できるだけ多くの作品を掲載していくよう検討し、月評会の結果をさらに反映できるよう努めます。
 - ④ 好評CMとして「GALAC」に載ったものをその制作者や広告主に送り、ギャラクシー賞応募への促進をはかるとともに、維持会員社への支援としていきます。また、ギャラクシー賞応募増につながるよう、クライアント、広告代理店、広告専門誌等へのPRに努めます。
 - ⑤ ギャラクシー賞CM部門の認知を他部門の認知レベルに少しでも近づけるべく「ギャラクシー賞CM入賞作品を見る・聴く会」を、今年も大賞受賞関係者をゲストに迎えて行います。
 - ⑥ ラジオCMの応募について。ラジオCMの審査方法、賞の本数の検討など、精度を上げていきたいと考えます。
- 4) 報道活動部門委員会の運営
- ① 報道活動部門は、放送批評懇談会の創立40周年を記念して2002年に創設されました。従来の賞やコンクールは、個々の「番組」の完成度や作品性を中心に評価を行ってきました。これに対して、報道活動部門は、個々の「番組」の枠組みでは必ずしも捉えきれない一連の報道「活動」を全体と



して評価するところに最大の特徴があります。番組内の特集やシリーズ企画、長期間に及ぶ調査報道、局を挙げてのキャンペーン、ウェブや他メディアと連動した新しい展開など、多種多様な報道活動を対象にし、放送ジャーナリズムの活性化に寄与することを目的としています。

②報道活動部門は応募制を採っています。年2回（上期・下期）、各社・各局からエントリーを受け付け、選考を行います。最終的に大賞1本、優秀賞2本、選奨3本を選びます。上記の選考の過程・結果は贈賞式及び「GALAC」誌上で発表します。

③ この他、年2回程度の情報交換会の開催、委員の持ち回りコラムの「GALAC」への掲載（「報道活動部門トピックス」）、「見る会、語る会」の開催などを通して、優れた報道活動を積極的に発掘・紹介すると同時に、多方面からの応募を促すよう努めます。



2019年度企画開催事業計画

1. 放送の今日的課題をめぐるシンポジウム、セミナー・研究会などを企画・立案・実施します。
2. 本年度の企画事業委員会は、以下の委員で構成します。
委員長 桜井聖子
副委員長 奥 律哉
委員 佐藤友紀 田川義博 長井展光 松崎泰弘
(ほか若干名交渉中)

3. 「放送を巡る規制改革」「通信と放送の融合・連携」「次世代移動通信『5G』のサービス開始」「厳しい経営が続くローカル局に活路をどう見出すのか」「魅力ある番組作り」など引き続き共有すべき課題があります。「放送」が大きな転機を迎えている状況をより意識し、ラジオ、テレビともに放送メディアの更なるアイデンティティの強化は重要なテーマです。

当委員会では、ジャーナリズム、放送文化、経営問題などを視野にいれ、前年度同様、タイムリーなワンポイントのテーマで中規模のセミナー、勉強会などを開催する方向で企画を行い、実施規模や時期についても合わせて検討いたします。

また、ラジオ、テレビ、CM、報道活動の各選奨事業委員会との連携を視野にいれた事業も検討していきます。

4. 基本方針案は以下の通りと致します。
 - ① 放送業界の活性化に貢献する。
 - ② 放送批評懇談会に相応しい質の高い企画を目指す。
 - ③ 他の委員会活動や月刊「GALAC」との連携を一層強化する。



2019年度広報委員会事業計画

1. 以下の委員で運営します。
委員長 滝野俊一
副委員長 茅原良平
委員 飯田みか 石橋さや夏 中平良磨 永田俊和
西川博泰 柳川素子
事務局 中島好登 齋藤茜里
2. SNS（フェイスブック、インスタグラム、ツイッター）やホームページを使った広報活動に、さらに力を入れます。
3. @nifty などのポータルサイトと連携した広報活動も積極的に行います。
4. 準会員制度「放送批評懇談会 オンライン会員 Gメンバー」（以下、Gメンバー）の運営を行います。「深夜番組」などの特別投票の実施、独自イベントの開催、メンバー限定の情報サービスを行い、準会員制度の盛り上げと充実に努めます。
5. Gメンバーの新規会員獲得のために、学生向けの「特別入会制度」など各種キャンペーンを実施します。
6. 親睦団体や大学関係者に働きかけるなどして、正会員およびGメンバーを獲得すべく草の根的な活動を行います。
7. マイベストTV賞の月間ノミネート番組の投票を毎月実施します。そして、年間グランプリ投票を行い、第14回「マイベストTV賞グランプリ」を決定し、第57回ギャラクシー賞贈賞式で表彰します。
8. リニューアルしたホームページの充実に図るとともに、アクセス解析を行い閲覧行動などの分析を実施します。また、SEO対策も実施します。



9. 「ギャラクシー賞データベース」の改善を図ります。

第五号議案

放送批評懇談会

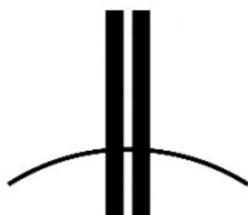
2019 年度収支予算

2019年度予算

2019年4月1日～2020年3月31日まで（単位：円）

科目	2018予算額	2018決算額	2019予算額	備考
I. 収入の部				
1. 会費等収入				
会費収入	2,900,000	3,489,185	3,000,000	正会員会費
維持会費収入	42,500,000	42,495,000	43,000,000	維持会員会費
Gメン-会費収入	300,000	128,922	50,000	Gメンメンバー 会費
2. 事業収入				
選奨表彰事業収入	33,000,000	30,518,180	31,000,000	参加料, 贈賞式収入, レプリカ販売
企画開催事業収入	1,000,000	519,000	800,000	シンポジウム参加料
周年事業収入		18,000		
3. その他の収入				
出版編集事業収入	4,500,000	5,944,043	5,000,000	GALAC販売
広告料収入	4,500,000	4,347,600	4,500,000	GALAC広告
4. 雑収入				
受取利息	0	214,766	0	
5. 退職金関連				
満期保険金			20,000,000	
退職金引当金戻入			21,449,142	
当期収入合計	88,700,000	87,674,696	128,799,142	退職金をのぞいた額 87,350,000
II. 支出の部				
1. 事業費				
選奨費	8,100,000	7,721,036	7,750,000	委員会, 見る聞く会, レプリカ, システム
式典費	12,800,000	13,187,493	12,500,000	ギャラクシー賞贈賞式開催費
企画開催費	700,000	492,077	500,000	委員会運営, セミナー実施経費
原稿料	5,700,000	5,842,628	5,700,000	GALAC原稿料
編集費	4,000,000	4,147,886	4,000,000	委員会運営, GALAC編集費
雑誌印刷費	18,000,000	19,018,584	18,400,000	GALAC印刷費
発送費	2,050,000	2,232,115	2,100,000	GALAC発送費
2. 管理費				
給料手当	18,220,000	19,024,496	22,000,000	職員給与
人件費	4,100,000	2,068,368	42,449,142	退職金, 臨時・契約職員
法定福利費	2,900,000	2,982,710	3,300,000	社会保険など
福利厚生費	160,000	162,376	170,000	残業飲食, 職員福利厚生
旅費交通費	650,000	627,965	630,000	通勤費・交通費, 役員交通費
通信費	600,000	574,415	580,000	郵便, 宅配便, 電話, ネット
資料費	50,000	46,610	50,000	新聞, 雑誌, 書籍
会議費	330,000	342,591	350,000	総会, 理事会などの会議費用
水道光熱費	290,000	300,176	300,000	水道代, 電気代
事務用品費	100,000	102,414	100,000	事務用品, PCソフト
消耗品費	360,000	349,887	350,000	コピー機使用料, 日用品
備品費	300,000	420,686	450,000	映像音響機器, PC関連機器
諸印刷費	800,000	762,480	300,000	封筒, 名刺など
広報費	1,200,000	2,264,500	1,800,000	委員会, Gサイト&DB維持, 日韓中+HP刷新
支払手数料	200,000	202,626	240,000	振込手数料, 更新手数料
賃借料	4,100,000	4,087,947	4,100,000	事務所賃借, コピー機レンタル
保険料	710,000	707,514	730,000	保険(退職金補填), 火災保険
交際費	150,000	200,220	200,000	冠婚葬祭
雑費	900,000	930,037	930,000	税理士, 社労士, NHK, WOWOW, JCOM
諸会費	150,000	151,644	150,000	友好団体会費
租税公課	80,000	70,000	70,000	法人都民税, 消費税, 収入印紙
退職給付引当金繰入	1,000,000	1,000,000	1,000,000	毎年100万円の積み立て
志賀基金繰入				
当期支出合計	88,700,000	90,021,481	131,199,142	退職金をのぞいた額 89,750,000
収支差金			2,400,000	

※2019年度の収支差金2,400,000円については、当会資産の一部をもって補填します。



NPO／特定非営利活動法人

放送批評懇談会

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-10-14 中村ビル 2F

Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

kondankai@houkon.jp <http://www.houkon.jp/>